

粃摺り工場に来られた年輩の農家の方が、独り言の様に、

あの山のトットの方が、 幸せかもしれんの～

皆、山へ仕事に行っていました。
足が不自由なお年寄りもオンバ押して
山へ行ってたそうです。
手入れされた山には、その季節その
季節で子供らのオヤツになるグイノミ
とか一杯、有りました。



写真 秋沢 淳三



物作りを生業とするに至った人類、
しかし、言わば、「命ある物」は作
れません。自然の生成に比して人間
が作る物は、「命がない物」と言う
事になります。そこでの生には死が
なく、死には生がなく、生と死の循
環がありません。

だから人類史は、「命の塊」である
自然を全て、つまり神として、その
全域で祭儀を行い、どう遣っても物
化する人類の生産活動を豊かさに繋
いできました。

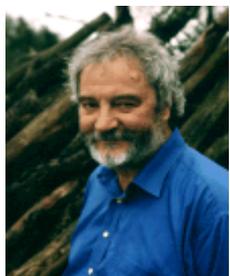


ホモサピエンスの出アフリカは、黎明の生産労働からの回避行動、狩猟採集民への回帰行動だった。



NHK日本人はるかな旅

夥しい人工物で砦化した人類社会の相対化を、



全て農耕には、
祝祭があった。

基本的にホモサピエンスは記号を作る生き物として、
その生産労働を文化芸術で補対させてきた。それは、
何処までも動物である人間の自然な要求だった。

現代美術はいま、美そのものではなく、
美の誕生の要因、そこを問題にしている。

アートでたんぼ

主催 記号ふるさとラボ 河野 博

2001



そして田植え



2003



2010



2017



2015



2011



田植え前に、稲の肥やしを



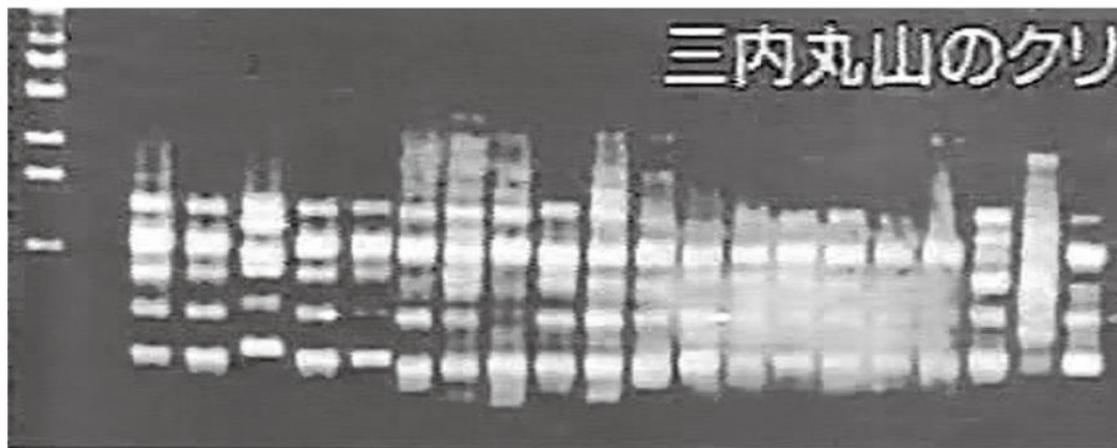
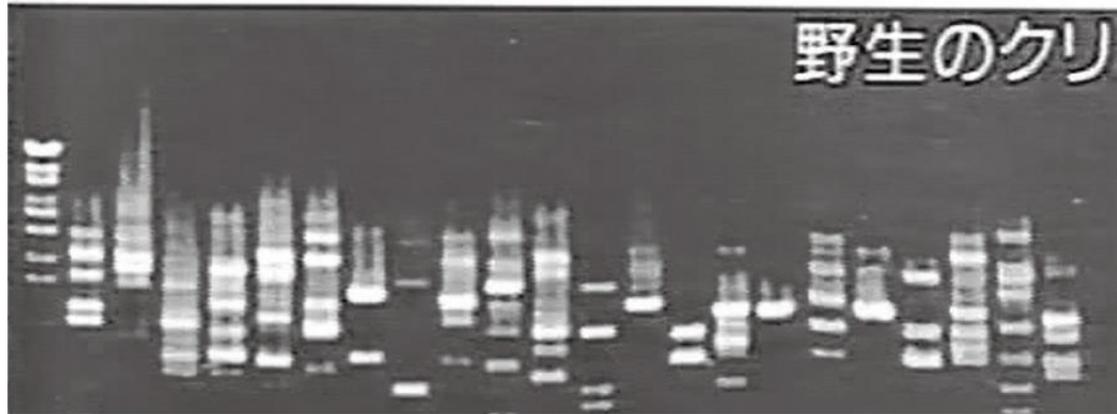
アートの向こうにある、本来のアートにイベントをする。

「たんぼでアート」から、「アートでたんぼ」に、



農生産物

アマゾンの先住民は、ジャングルで採れる食物には魂が有り、私達が焼き畑で作った食物には魂がないと言う。

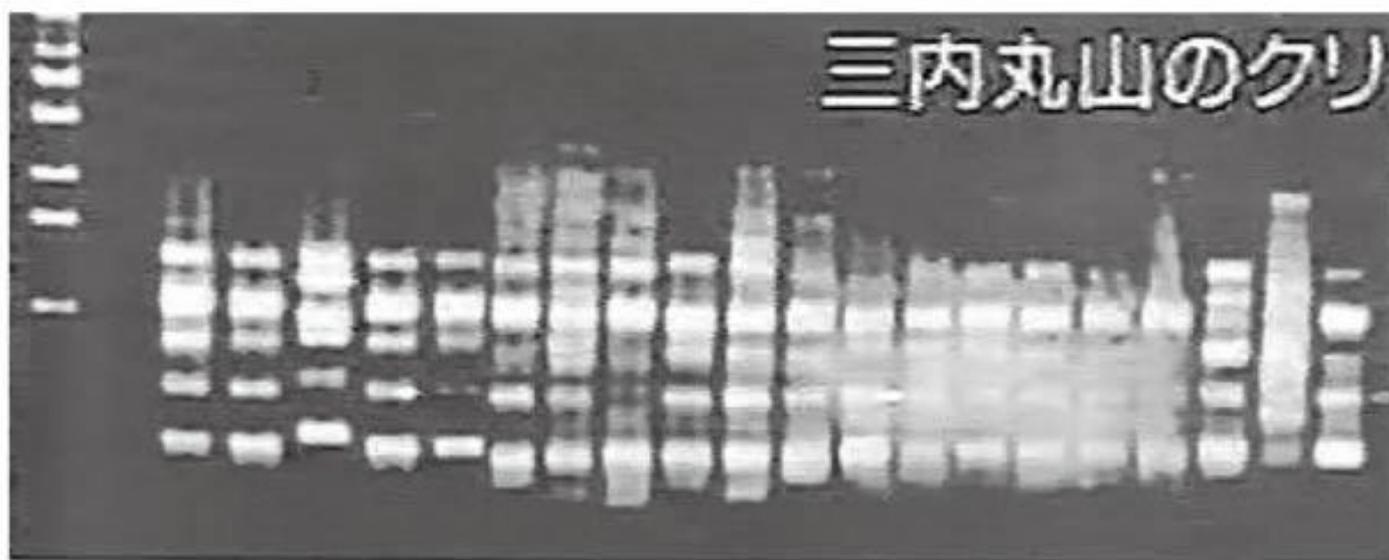
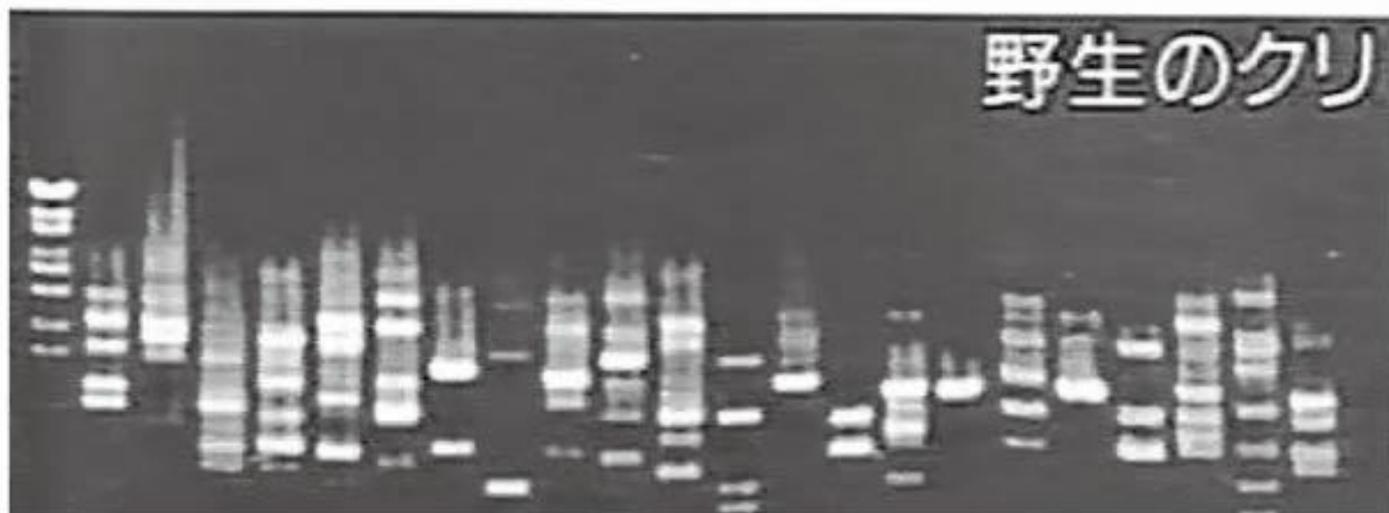


佐藤洋一郎氏による三内丸山のクリの遺伝子

栽培することにより遺伝子は多様性を失う。

だから、人類は歌い踊った、

アマゾンの先住民いわく、
ジャングルで採れる食べ物には魂があるが、
我々が畑で作った食べ物には魂がない、



佐藤洋一郎氏による三内丸山のクリの遺伝子

彼らが言う魂を、補うために、



NHK日本人はるかな旅

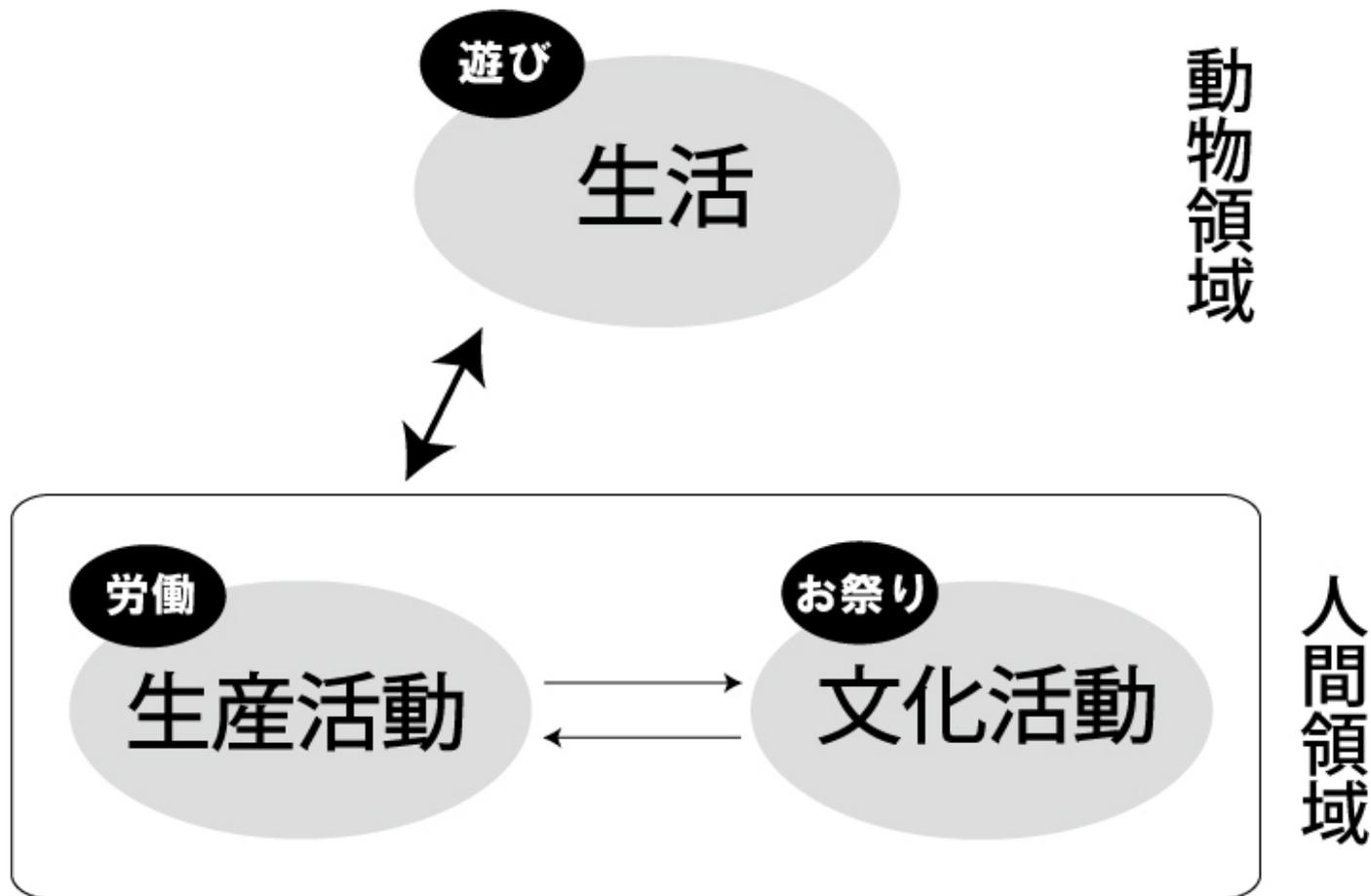
だから、人は歌った

アートは、 生産活動である。

文化芸術は、「心を豊かにする」もので生産活動からは遠いものと言いますが、そうではなく、生活を侵害する生産活動に対処する、生産活動の一部です。

生産学は文化学同居を、文化学は生産学同居を

人の生活を侵害する生産労働に対して、
文化芸術は生まれた。

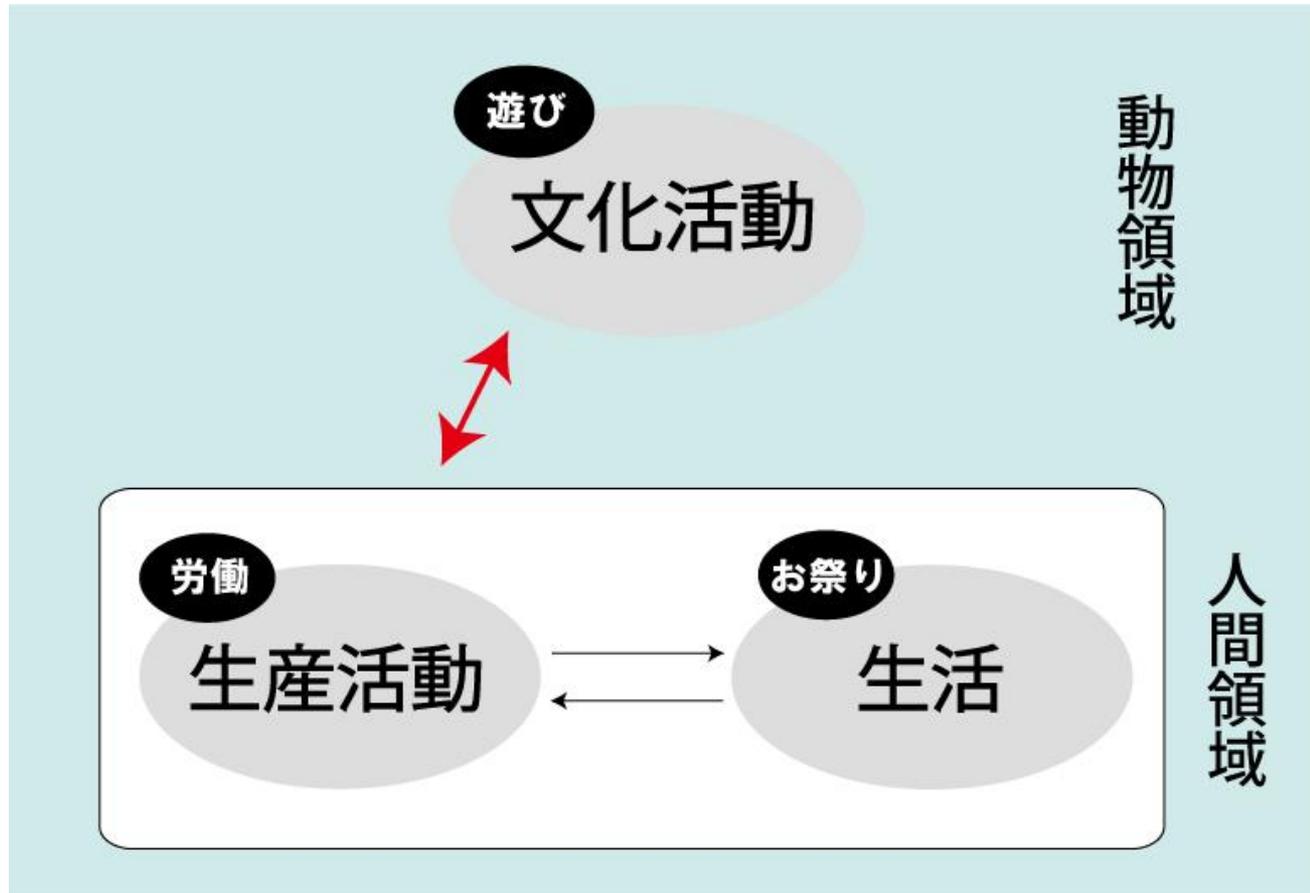


生産労働を行い、かつ文化芸術も行う万物の靈長、
そうではなく、本当の理由は、お互いは補対関係だった。

本来生活と文化芸術は、
何の関係もなかった。

ところが歴史は文化芸術を、心の活動と
言う、生活の一部にしてしまった。

生活と文化活動の転位で、生産活動は生活化し、本来バーチャルである文化活動は、動物領域で遊び化し堅牢な実在に成ってしまった。



この生産活動と生活の癒着で、生産活動は全権を掌握して、歴史が始まる事になった。

つまり、

人類も、生産活動を始動させて
無かったら、文化芸術も無かった。

歌い踊り祈る動物は、生産活動を
する人間だけである。

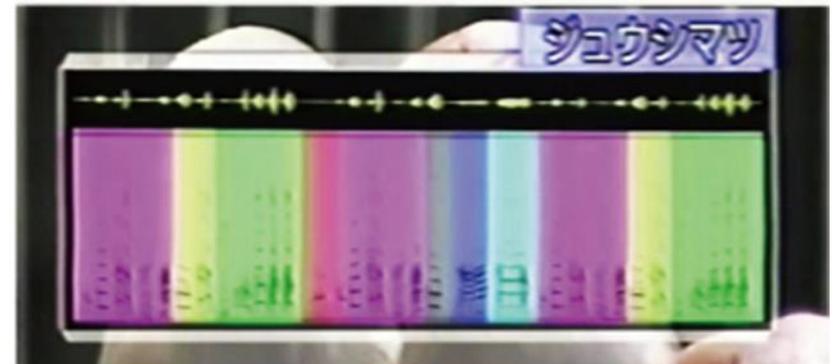
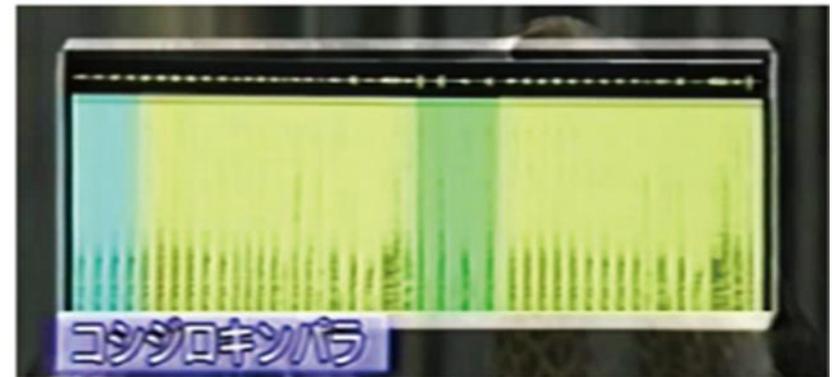
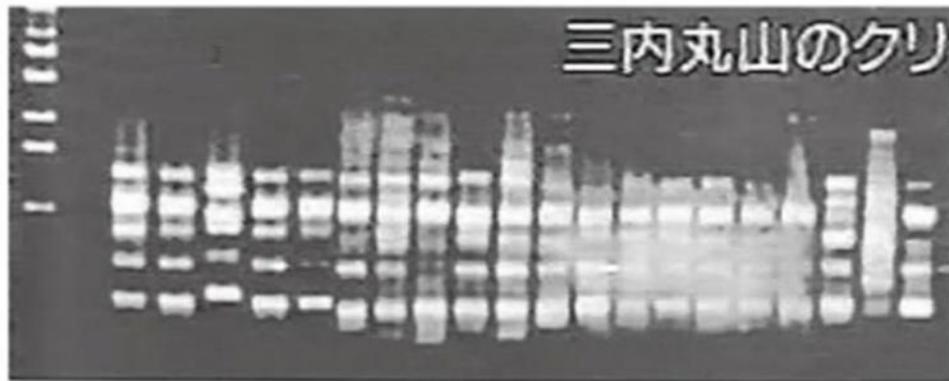
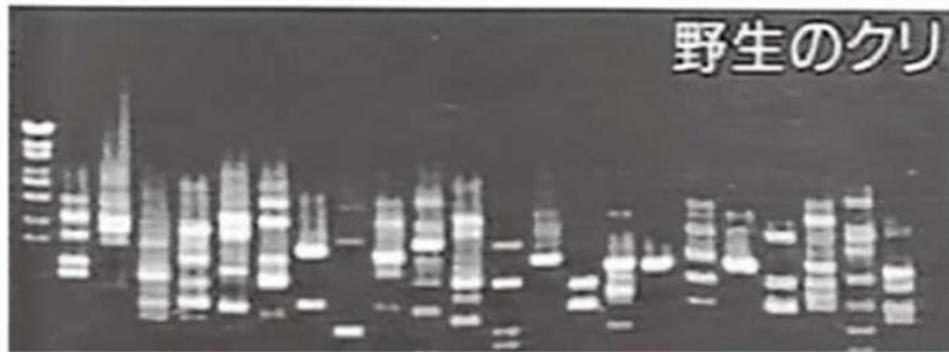
しかし、ジュウシマツは歌う

♂♀という本来的な関係性に起きた、人類の歌うという異変を鳥が習得した？
それは、鳥が飼われると言う人為的環境から、鳥そのものの多様性を失われた。



NHK人類700万年の歴史

ジュウシマツの♂♀を、コシジロキンパラの住む山に戻したら、
ジュウシマツの♀はコシジロキンパラの♂と恋をするだろう。



生命が多様であれば、表現はシンプルである。
ところが、人間の飼育で生物としてのそれが
単様になると、表現は複雑になる。

生産労働の本質とは、
それらの生活侵害とは、

文化芸術はそれを
どの様に読解するか、

そこには、恐らく明快な数式がある。

アートは、生産労働の本質を明分化する。

音楽



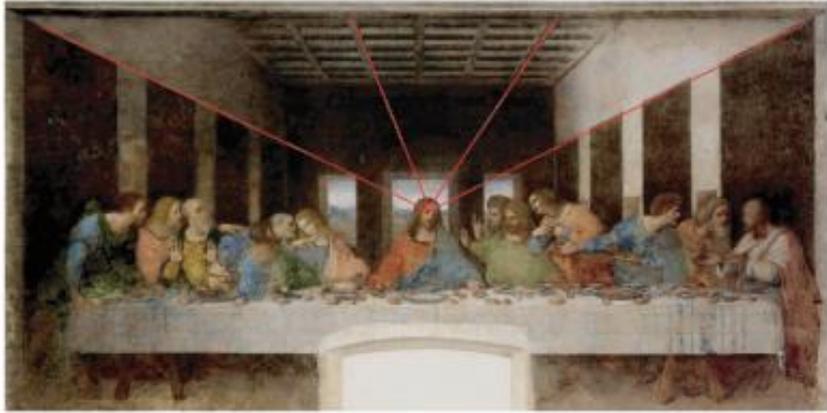
1965年「ふる里の話をしよう」
この時代のこの列島の
産業異変を歌っている。
これは、その生産労働の
解析作業をしている。

美術



この日常で消失するもの、そこに人は感動する。
それは生産労働の生理的な相対化である。

da Vinci



Utrillo



Cezanne

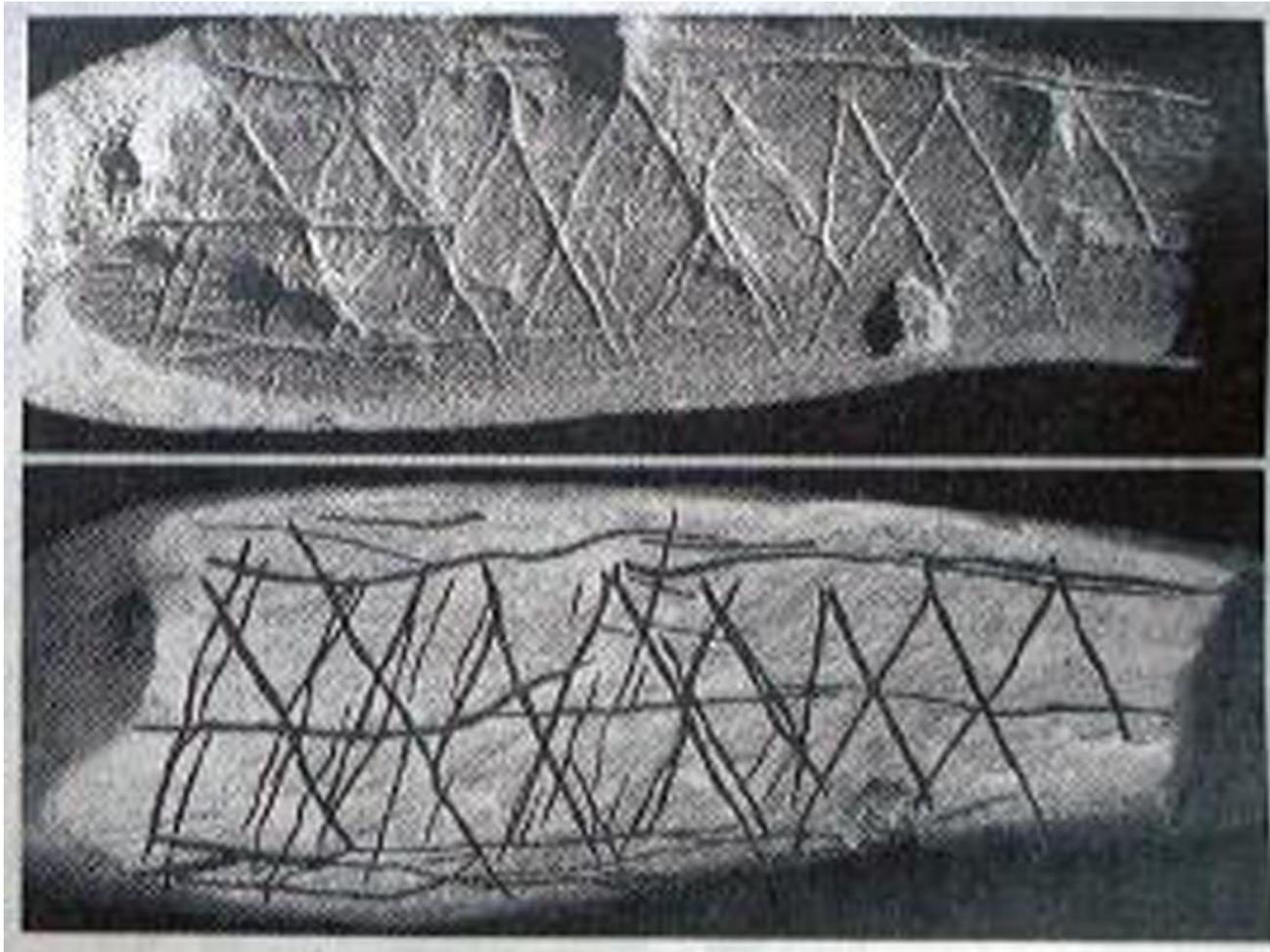


- 音楽美術から、生産労働を
- 現代アートから、生産労働を
- 旧石器アートから、生産労働を
- 縄文アートから、生産労働を
- 田舎の文化から、生産労働を

生産活動の肥大に伴う美術の変遷、そこでは既に、分業化された文化芸術からの復帰作業が始まっています。



人類最古の絵画 そこには既に工房が、
模様がある黄土の塊が約8000個発見された。
このオーカーは日焼け止めや装飾として顔や身体に塗ったらしい。
中期旧石器時代の前半に生産労働が既に、むしろそれは、
狩猟採集社会で既に、発生していたと考えられそうです。



7
万
7
千
年
前

南
ア

プ
ロ
ン
ボ
ス
洞
窟

アートの背後には、必ず生産労働がある。

2002年 南アフリカ プロンボス洞窟



NHK人類700万年の歴史

ナミビアのビンバ族では今も



洞窟は14万年前から使われ、
オーカー作りは約10万年前
からの最古の生産設備らしい。
着色料の生産では、
アザラシの骨炭で粘度や安
定性を高めていた。

またエチオピア
の洞窟では、4万
5,000年前、そこ
が4,500年間も、
絵具を製作する
作業場だった。



諸々の生産活動の一つとして農耕牧畜が始まった。



39,000 年前

スペインのアルタミラ洞窟で、年代測定用の試料を採取する研究者。
色鮮やかな動物たちは1万9000～1万5000年前に描かれた。

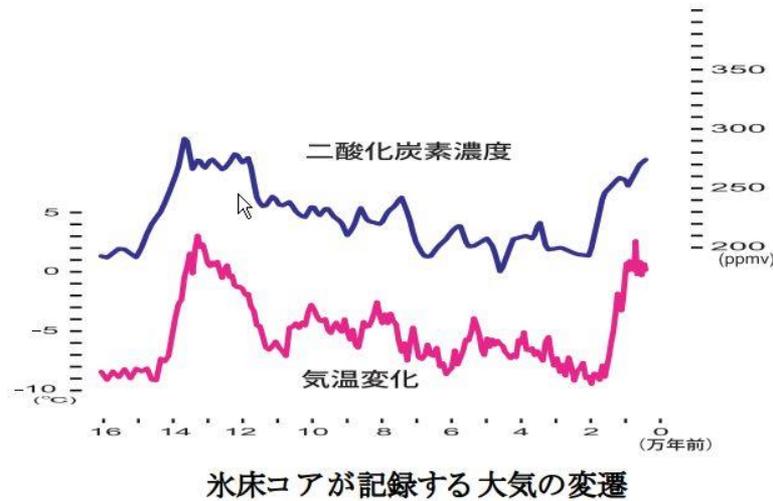
抽象的な模様はさらに2万年古いと考えられる。

生産活動から来る命の剥離を遮断させる為にビーナスが、物化された音の出現で音楽の必要性が生まれてしまった。



映画「忘れられた夢の記憶」

そして生産労働が人類史になった。



人類の初元の美意識で問題にされるアシュレーアン石器は、まだ人類が殆ど生活領域だけに収まった時期の、美が生まれる以前の事柄である。



農耕による食料の、言わば 魂の欠落が争いを招き始めた



パプア・ニューギニア
旧石器時代のたんぼ

2012. 2. 19

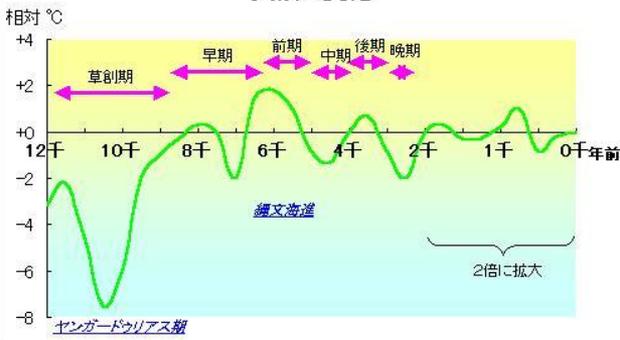
NHKスペシャル「ヒューマン-なぜ人間になれたのか-」第3集 大地に種をまいたときより

縄文社会は抑制型の農耕社会である。

縄文期の異常な数の縄文土器、それは旺盛な生産に応じる過剰だった。その近代的な造形は後期には縮小して行った。それは生産活動と生活のバランスが崩れたからである。



気候の変化



晩氷期以降の気候変動と文明の盛衰(安田, 1996)
(年代は補正を加えない4年代測定値にもとづいたもの)
『縄文文明の環境』安田喜憲著、吉川弘文館発行 参照





これは生産労働の表記です。

地域の伝統アート、文化

ここに有るのは近代的な野生の思考ではなく、
スンダーランドやシベリアがルーツの、
我々の体から滲みでる**田舎の思考**です。



三昧



三番叟

田舎そのものが、生の哲学

- ☀ 基盤整理前のたんぼの米は旨かった。
- ☀ 子供等のオヤツは、野山にあった。
- ☀ おっさん曰く、人類は全資産つぎ込んでもハエ一匹作れんの～



生産物とは何か、

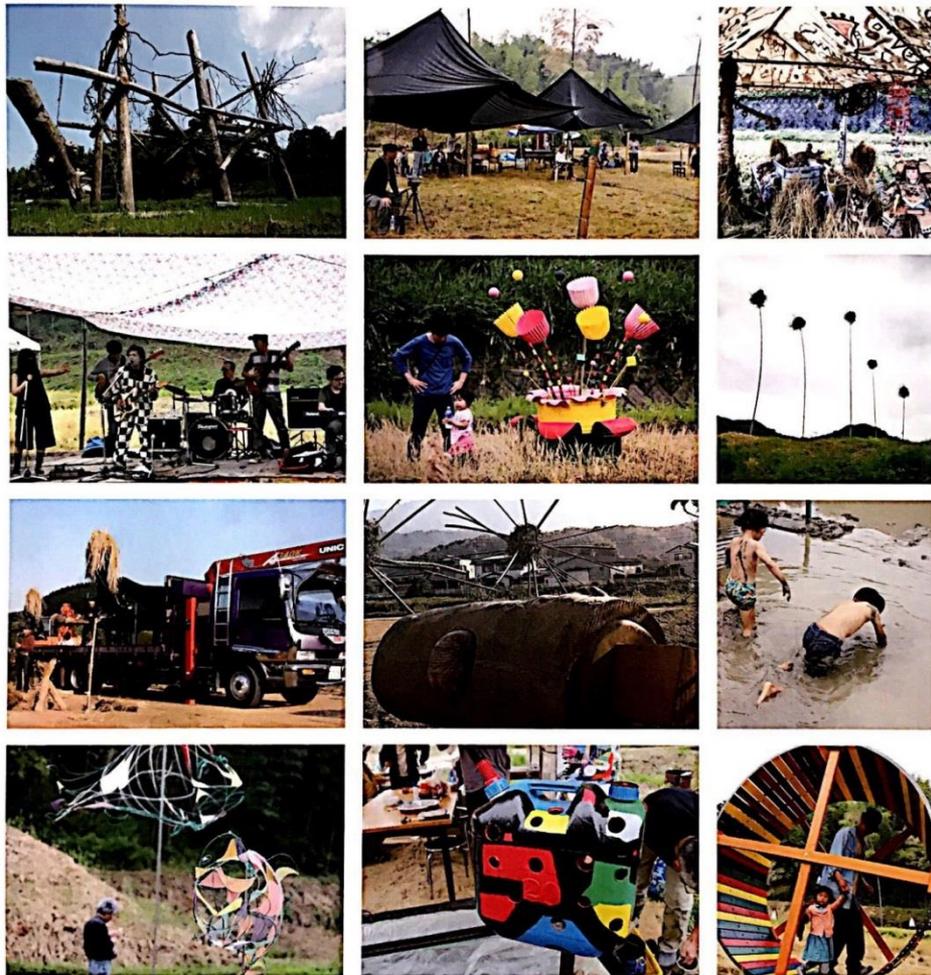
生産物にどっぷりと漬かる人類、その異変とは、
そこに何の不自然さも感じない事かも知れません。

現象から見れば、生産物が生産物であるのは、1%にも満たないが、生産活動は、これは全であると誇示する。お祭りは、そこを解体しています。

ヨーロッパ近代アートがヨーロッパ文明からの脱出を図ったように、現代アートは、「生産と消費」の資本主義社会からの脱出を図っています。それは、人類も生き物であると、文化とは従来の人間の脱動物活動ではなく、農耕と言う脱地球活動に苛まれた人類の、むしろ生き物の世界への帰還作業です。しかもそれは、最近まで人々が、津々浦々何処でもやってきた、当たり前の事象なのです。無数の神々やお祭りを生活の真中に据え、今が過去と未来を同時に作って行く、そんな営みが我々には、永々と有ったのです。それを今アートは、歌や踊りで溶融して、再びそんな日々の何かと言うことです。

地球帰還形農業へ、かがわ・山なみ芸術祭プログラムでの2016年序章でした。

「アートで田植え祭り5/22~29」/「三ノ瀬アートで収穫祭10/29~11/13」



【参加者】 誌沢臨市/狩野幸子/すみれが丘レーダーステーション/小野シシ/ザ☆貪欲ズ/あがるた/コンセプト/ザ・ジュニアズ/不純/南優/工藤政秀/佐藤淳/磨田孝一郎/川島慶樹/川崎展子/杉本公和/古川守一/高田芳樹/原田敬一/本多真理子/内海仁/小林なおこ/佐川善郎/多田雅隆/福西哲雄/庄子勝治/山田いずみ/三好直美/松山 Contemporary dancers/山下義和/大森勝司/山本修二/要 隆/高ちゃん/忌部家団/コラル・ダ・コール/ミラー・ミッチー/イー・タンタン/バカ/ TUKURENJYA /河野洋司/村井知之/松山秀徳/若林輝則/寺田正春/アーチ 21 /川田ナショナル/カミイケタクヤ/秋山陣/三好東曜/倉石文雄/原博史/平野敬三/カフェマヤ/牛さん/河野博

アートで地域を、
ジャングルへ。
生氣と多様性の塊である

20世紀アートから生まれた記号形アーティスト達の アート帰還劇は来るべき生産社会へのプログラム

【参加者】 詰沢脇市 / 狩野幸子 / すみれが丘レーダーステーション / 小野シシ
/ 工藤政秀 / 佐藤淳 / 磨田孝一郎 / 川島慶樹 / 川崎展子 / 杉本公和 / ザ☆貪欲ズ
/ 福西哲雄 / 庄子勝治 / 山田いずみ / 三好直美 / 松山 Contemporary dancers
部楽団 / コラール・ダ・コール / ミラー・ミッチー / 黒子樵 / イー・タンタン /
/ 寺田正春 / アーチ 21 / 川田ナショナル / カミイケタクヤ / 秋山陣 / 三好東曜 /
/ 小野シシ / ザ☆貪欲ズ / あがるた / コンセプト / ザ・ジェニーズ / 不純 / 南優
古川守一 / 高田芳樹 / 原田敬一 / 本多真理子 / 内海仁 / 小林なおこ / 佐川善郎
/ 多田羅茂隆 / 山下義和 / 大森勝司 / 山本修二 / 要 隆 / 高ちゃん / 三好東曜
/ バカ / TUKURENJYA / 河野洋司 / 村井知之 / 松山秀徳 / 若林輝則 / 倉石文雄
/ 原博史 / 平野敬三 / カフェマヤ / 牛さん / 河野博

今後の活動

- アート作品をたんぼに点在させる事で、例えばジャングルへの帰路を、
- 祝祭を持った農産物の直売場、お祭りのある食品のお店を、
- 市の行政、そしてJAに、伝統文化&アートを、プレモダンによる地域作りへ、
- 芸術農業科を、まず地元の農業高校で、
- 地域に点在する文化遺物の再評価、それは生活から豊かさを消失させる生産労働の修正システムだった。、
- アートでたんぼの移出、新たなたんぼ探しを

文化芸術、本来は生産活動だった。
21世紀はそれが再興する世紀、
それは21世紀の文芸復興ルネサンス

肥大してアンモナイトは絶滅した。

その生産制御システム



おわりに
この美術からの世界、アート
から見えているもの、それは
人類の生産労働の原像です。
農耕には必ず祝祭があった、
その理由、それがアートです。

ご清聴ありがとうございました。